

広島県感染症発生動向月報

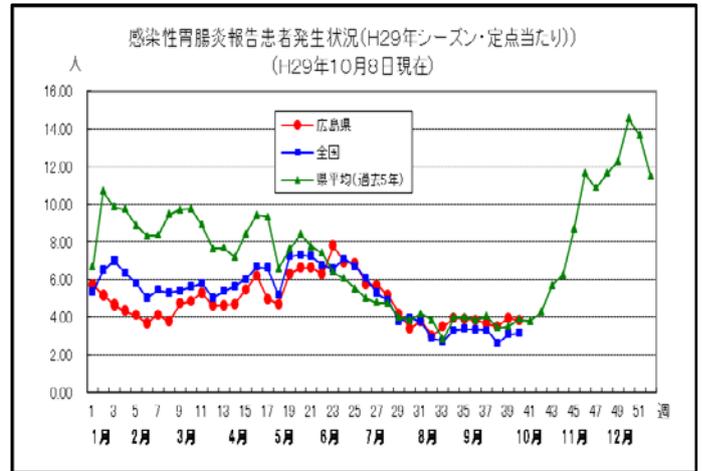
[広島県感染症予防研究調査会]
(平成29年10月解析分)

1 今月のトピックス

(1) 感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎を引き起こす病原体は、細菌、ウイルス等、たくさんの種類がありますが、冬季に流行する病原体は、ノロウイルスやロタウイルスなどウイルス性のものが多く見られます。

なかでもノロウイルスは、非常に感染力が強く、施設内等では感染が拡大し、多くの方が罹患する傾向があり、これからの季節、注意が必要です。高齢者施設、保育園や幼稚園などの施設では、ノロウイルス等を原因とする感染性胃腸炎の集団感染に対する予防対策の徹底をお願いします。



● 症状

- ・発熱、下痢（水様便、血便）、腹痛、悪心、嘔吐などの症状が出ますが、病原体によって異なります。
- ・下痢症状が遅れて出る場合や発熱を伴わない場合もあります。

● 予防方法

- ・手洗い、うがいを励行するとともに、食品は十分に加熱調理しましょう。
- ・外から帰ったとき、トイレの後、調理の前、食事の前には、必ず石けんで手を洗いましょう。
- ・患者の便や吐物には多量のウイルスが含まれています。これらのものを処理する場合は、直接素手では触れず、手袋を使って処理し、汚染箇所は次亜塩素酸ナトリウムで消毒してください。
- ・嘔吐したり、下痢症状がある時は、タオルの共用は控えましょう。

(2) インフルエンザワクチンの接種について

インフルエンザのシーズンが近づいてきました。インフルエンザワクチンの予防接種には、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられます。早めの接種を心がけましょう。



● 接種するワクチン

- ・A型2種、B型2種のウイルス株が混合された4価ワクチン

● 留意事項等

- ・お近くの医療機関で予防接種を受けることができます。事前に電話などで確認をしてください。
- ・65歳以上の高齢者や、60歳から65歳未満で心臓、腎臓又は呼吸器に重い病気がある方は、接種費用の助成が受けられますので、お住まいの市町にお問い合わせください。
- ・ワクチン接種は多くの方々に重症化予防というメリットをもたらしますが、接種後、腫れや発熱などの症状が現れる方も、わずかではありますがおられます。この点を御理解いただいたうえで、個人の選択により接種を受けるようお願いいたします。
- ・ワクチン接種による効果が現れるまで2週間程度を要します。早めの接種をお勧めします。

※ 予防接種の詳細については、お住まいの市町の予防接種担当窓口へお問い合わせください。

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成29年9月分(平成29年9月4日～平成29年10月1日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	217	0.47	0.03	↑	11	ヘルパンギーナ	117	0.41	0.42	↓
2	RSウイルス感染症	980	3.40	1.43	↗	12	流行性耳下腺炎	67	0.23	0.63	↗
3	咽頭結膜熱	130	0.45	0.42	↗	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	453	1.57	1.17	↗	14	流行性角結膜炎	50	0.66	0.97	↓
5	感染性胃腸炎	1,074	3.73	3.56	→	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	70	0.24	0.49	↓	16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.06	
7	手足口病	440	1.53	1.07	↓	17	マイコプラズマ肺炎	11	0.13	0.28	↗
8	伝染性紅斑	5	0.02	0.13		18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	91	0.32	0.45	↓	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.01	—	
10	百日咳	3	0.01	0.04							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成29年9月分(9月1日～9月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	44	1.91	2.31	↗	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	69	3.29	4.03	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.69	↓	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	8	0.38	0.31	
22	尖圭コンジローマ	15	0.65	0.71	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.03	
23	淋菌感染症	18	0.78	0.93	↗						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 インフルエンザ (0.18 → 0.47)
○急減疾患 なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	37	結核(37)〔西部保健所(6)、西部東保健所(9)、東部保健所(5)、北部保健所(3)、広島市保健所(8)、呉市保健所(3)、福山市保健所(3)〕
三類	21	腸管出血性大腸菌感染症(21)〔東部保健所(1)、福山市保健所(20)〕
四類	29	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕、デング熱(2)〔広島市保健所(2)〕、マラリア(1)〔広島市保健所(1)〕、レジオネラ症(8)〔東部保健所(4)、広島市保健所(4)〕、日本紅斑熱(17)〔西部保健所(1)、東部保健所(11)、広島市保健所(1)、福山市保健所(4)〕
五類全数	23	アメーバ赤痢(2)〔西部保健所(2)〕、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(4)〔西部保健所(1)、西部東保健所(1)、広島市保健所(1)、福山市保健所(1)〕、後天性免疫不全症候群(2)〔広島市保健所(2)〕、侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕、水痘(入院例)(1)〔西部保健所(1)〕、播種性クリプトコックス症(1)〔西部保健所(1)〕、梅毒(12)〔西部保健所(1)、東部保健所(1)、広島市保健所(4)、呉市保健所(1)、福山市保健所(5)〕